

平成27年度「三重県企業庁の経営に関する懇談会」開催結果概要

1 日 時 平成28年2月10日（水）10：00～12：10

2 場 所 ホテルグリーンパーク津 6階 木犀の間

3 出席者

(1) 懇談会委員（50音順、敬称略）

朝日 幸代（国立大学法人三重大学 人文学部 法律経済学科 教授）

家田 一浩（味の素株式会社 東海事業所 次長）

池山 弘樹（愛知機械工業株式会社 生産本部 松阪工場
工務部 工務課長 兼 安全環境エネルギー室 主担）

佐治 輝明（津市 上下水道事業管理者）

土田 繁（土田会計事務所 代表）

豊田 由紀美（Y's 建築設計事務所 代表）

(2) 企業庁

企業庁長、副庁長、次長、電気事業対策総括監、参事、
企業総務課長、財務管理課長、水道事業課長、工業用水道事業課長、
電気事業課長、危機・事業管理監兼RDF発電監

4 内 容

(1) 事業概要説明

- ①三重県企業庁の概要
- ②長期経営ビジョン及び中期経営計画
- ③平成26年度決算の概要
- ④水道用水供給事業の実施状況
- ⑤工業用水道事業の実施状況
- ⑥電気事業の実施状況
- ⑦平成26年度懇談会でのご意見に対する考え方・取組状況

(2) 意見交換

5 主なご意見等

(工業用水の料金・PRについて)

- ・工業用水道は代替のききにくいインフラであり、施設の更新や耐震化等のために多額の設備投資が必要となるのは理解できるので、将来的に負担を求める受益者（ユーザー）に対して、このような実態をこれまで以上に情報提供し、将来の負担について理解を醸成することが必要である。
- ・電力の自由化に伴い家庭においても料金だけでなくプラスαのサービスを比較検討し電力会社を選べるようになっており、新規立地を検討する企業においても三重県の良さを比較できるよう、工業用水の料金が近隣県よりも安いことや、何かプラスαのサービスがあるのであればそういったことを積極的にPRしてはどうか。

(工業用水の需要拡大等について)

- ・例えば工業用水の料金を値引きすることで、多くの新規企業が立地するならば逆に事業の採算性が確保できることも考えられるが、そのような戦略はあるか。
- ・高速道路の整備に伴って内陸部での工業団地開発が想定されるが、これまで工業用水道が整備されていない内陸部への給水について、企業庁はどのように対応していくのか。

(工業用水の需要等に関するアンケート調査について)

- ・技術革新等によって工業用水の使用状況も変わっている中で、将来の水需要予測のためにも既存ユーザーに対して現在の使用実態と今後の使用見込み（量、質、用途）をアンケート調査してはどうか。

(工業用水のユーザーの撤退に伴う負担について)

- ・工業用水のユーザーが撤退する場合、企業庁が施設整備に投下したコスト回収のために既存ユーザーへ負担をかけてはいけないなど検討されていると思うが、どのように公平性を担保したうえで企業に負担を求めていくのかの方針等はどうか。

(災害への備えについて)

- ・東日本大震災を踏まえた問題点や三重県のハザードマップと照らし合わせた施設の弱み、またバックアップ体制などの強みを整理することで、強みのPRや弱みに対して資金を集中投下することができると思うが、こうした取組はされているのか。
- ・これまでも広域的な連携に取り組まれているが、被災時における迅速な復旧は住民や企業の満足度に直接つながるため、復旧期間をできる限り縮めるよう、近隣県と広域的な連携についての議論を更に頻度を高めてはどうか。

(渇水時の節水について)

- ・以前、渇水時に節水要請があった際に、設備投資をして節水に大きく貢献した企業とそうでない企業があり、節水の取組度合いに差があったことから、こうした不公平感を是正するために例えば削減率に応じた補助金を設けるなどの考えはあるか。

(水道事業の一元化について)

- ・香川県で水道事業の一元化の動きがあるが、三重県ではどうか。

(太陽光発電について)

- ・浄水場に設置された太陽光発電設備の採算性はどうか。
- ・コストの動向をみつつ、継続して導入の検討を進めてほしい。